

2009年度 環境活動報告書



2010年 7月 7日

株式会社群桐産業

目次

・ 会社概要	1
・ 環境方針	2
・ 環境管理組織図	3
・ 環境目的とその実績	4
・ CO ₂ の排出量と大気環境測定結果	6
・ “脱”埋立処理	7
・ その他の活動	7
・ 専用機械の活躍紹介	8
・ 環境情報記録	9
・ おわりに	9

会社概要

- 事業者名及び代表者名

株式会社群桐産業
代表取締役 山口 茂



ISO 14001 認証取得

- 所在地

〒379-2301
群馬県太田市藪塚町3201

- 事業内容

廃油の収集運搬、再生処理及び販売並びに各種産業廃棄物の収集運搬及び前処理を含む焼却処理

- 事業規模等

設 立： 1984年11月28日
資 本 金： 6,000万円
売 上 高： 12億5,000万円（2009年度）
社 員 数： 70名

- 設備概要

面 積：	総敷地	4,665.60m ²
	事務所	251.56m ² （延床面積：416.78m ² ）
	油水分離施設	90.00m ²
	焼却施設	118.59m ²
	倉庫	258.69m ² （延床面積：496.84m ² ）
主要設備：	収集運搬車輛	37台
	油水分離施設	1式
	焼却施設	1式
	ボイラー	1基

- 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者： 専務取締役 山口 博
環境保全部： 部長 江原 慶治
（ISO事務局）

連絡先： TEL：0277-78-2479 FAX：0277-78-5084

E-mail：info@grr.co.jp

- 報告対象期間

2009年6月1日～2010年5月31日

環境方針

Policy

基本理念

当社は、全ての事業活動において、私たちが出来る事は、人類が生きていくための環境を守り整えることであることを深く認識し、地域・顧客・パートナーとの信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与します。

基本方針

当社は、産業廃棄物（特別管理含む）の収集運搬及び中間処理、廃油の再生処理を主な業務としていることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。



事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に把握し、同時にこれらが係わる環境関連の法律、規制、協定の要求事項を明確にし、全社及び各部門毎に環境目的・目標・管理計画を定め、全員で取り組み、環境保全活動の継続的な改善及び質の向上に努めます。

事業活動、製品及びサービスに係わる環境関連の法律、規制、協定を遵守し、さらに地域社会との協調により一層の環境リスクマネジメントに取り組みます。また、お客様や関係業者、地域社会や国との良好なコミュニケーションのため、積極的な情報開示に取り組みます。

環境保全と汚染予防の重要性を認識し、事業活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち以下の項目を環境管理の重点テーマとして、環境汚染の防止に取り組みます。

循環型社会に適合した廃棄物の回収及び再生処理により

(1) 資源保護・再使用・再利用に配慮した製品を提供します。(省資源)

循環型社会をめざす事業活動として

(2) エネルギーの効率的利用をします。(省エネ)

(3) 廃棄物の削減と適正処理とともに100%リサイクルの達成を目指します。

(4) 環境影響の大きい廃棄物の焼却について、二次的な環境汚染を防ぎ、設備の適正管理を行います。

定期的に内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの見直しと自主管理の維持・向上に努めます。

環境教育、社内広報活動などを実施し全社員の環境方針の理解を図るとともに、協力企業構成員にも伝達し、環境に関する意識向上を図ります。

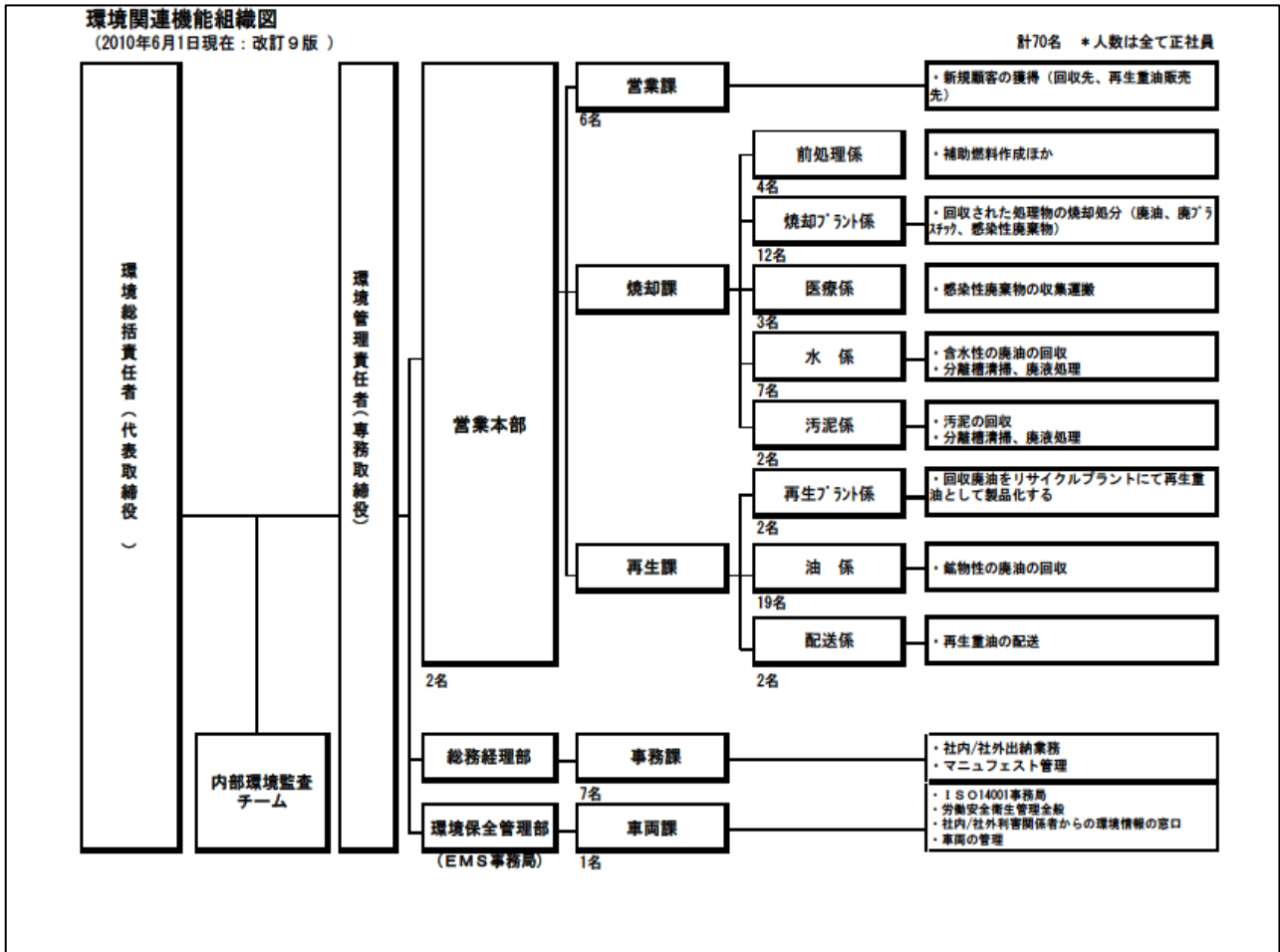
この環境方針は、一般に公表します。

2008年5月10日

株式会社群桐産業

代表取締役 山口 茂

環境管理組織図



当社の環境組織図は上図のようになっています。

社長を環境総括責任者とし、専務を環境管理責任者としています。また、各課の責任者は、内部監査員としてEMS（環境マネジメントシステム）事務局と共にチームを編制し、年1回の内部監査を実施しています。

2009年11月時点で、各課に1名ずつの内部環境監査員の資格者を配置(内女性2名)済みとなりました。

EMS事務局は、環境保全管理部が主幹しており、環境管理責任者と共に環境活動における重要な役割を果たしています。

環境管理責任者は、主に法律関係や環境目的・目標・プログラム等に係わる業務の管理並びにその他業務の管理及び承認を行います。

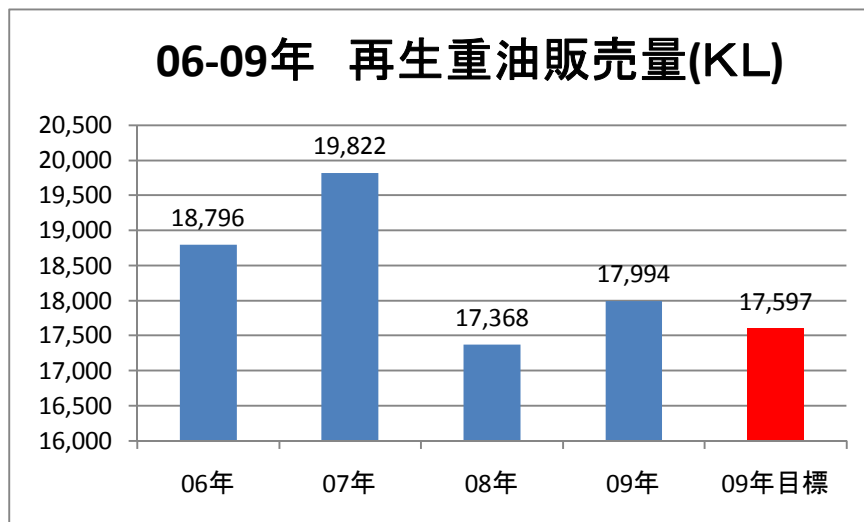
環境総括責任者は、各種重要項目の承認並びに環境管理計画の見直しによる是正・改善を、環境活動が継続的に適切かつ効果的に運用されるよう環境管理責任者に指示します。

環境目標とその実績

● 再生重油販売量UP

「循環型社会に適合し、資源保護に配慮した製品の提供」として、廃油の燃料化を推進しています。これにより新たな化石燃料の使用を削減できるとして資源の節約に貢献しています。これは又間接的に二酸化炭素の排出量の削減にも寄与し

ています。09年度の経済状況は、08年度とほぼ同様でしたが、3年、4年前の数値には届かないものの傾向としてグラフを見る限り販売量は回復基調にあると思われま。当社としては、今後の景気の動向を注視しながら、引き続き廃油のリサイクル燃料化及び関連事業に全力で取り組みます。

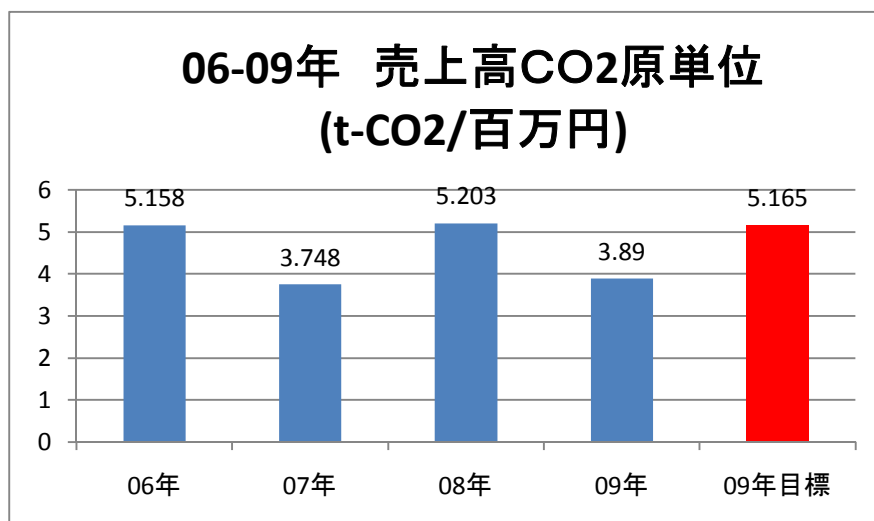


● CO₂排出量削減

「地球温暖化（気候変動）防止活動」として売上高CO₂原単位排出量の削減に努めています。

前年度は、目標値の見直しを実施しましたが、今年度は結果として、代替燃料の多用により燃料として使用する再生重油の使用が大幅に減少

したことにより、目標を大幅に上回る、132.78%の達成率を出すことが出来ました。



今後も、事業活動の拡大に伴うエネルギー消費の増大については、その効率を高めことで、CO₂の排出量を減らし、地球温暖化防止に貢献していきたいと考えております。

環境目標とその実績

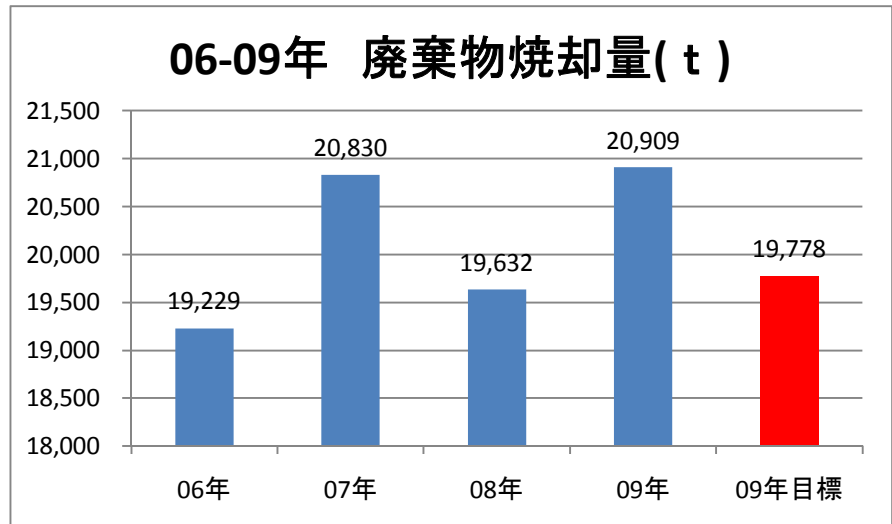
● 廃棄物焼却量UP

循環型社会を目指す事業活動として、当社では廃棄物の焼却処理後の残渣物（燃え殻等）を埋立処分せず、熔融固化処理業者へ委託し、建設資材等にリサイクルしています。

そこで、当社にて焼却処理される廃棄物量を増やすことで、

廃棄物の埋立処分量を減らすのと同時に廃棄物の再資源化に貢献できることから、特に処理困難物（感染性廃棄物や廃油類等）の焼却処理量の増加に努めています。前年は、やはり経済状況を受けて処理量そのものが一時的に減少しましたが、今年度は、目標値を1000 t以上上回る結果をだすことができ目標値に対して105.72%の達成率となりました。

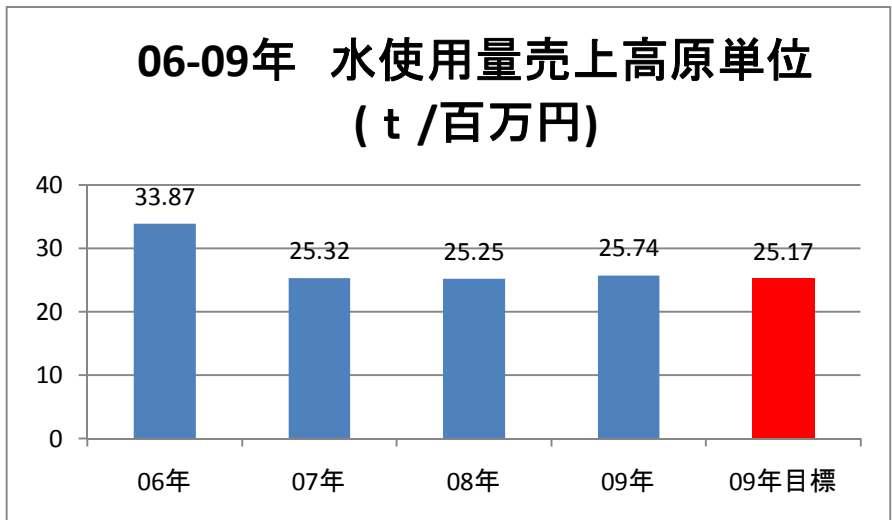
今後は、営業活動の更なる強化・推進に取り組み、廃棄物の受入処理量UPを目指します。



● 水の使用量削減

「エネルギーの効率的利用」として、売上高原単位で水（上水のみ対象）の使用量の削減に努めています。09年度目標の25.174 t/百万円に対して実績は25.740 t/百万円となり、年度目標達成率は101.5%でした。雨水排水等の再利用

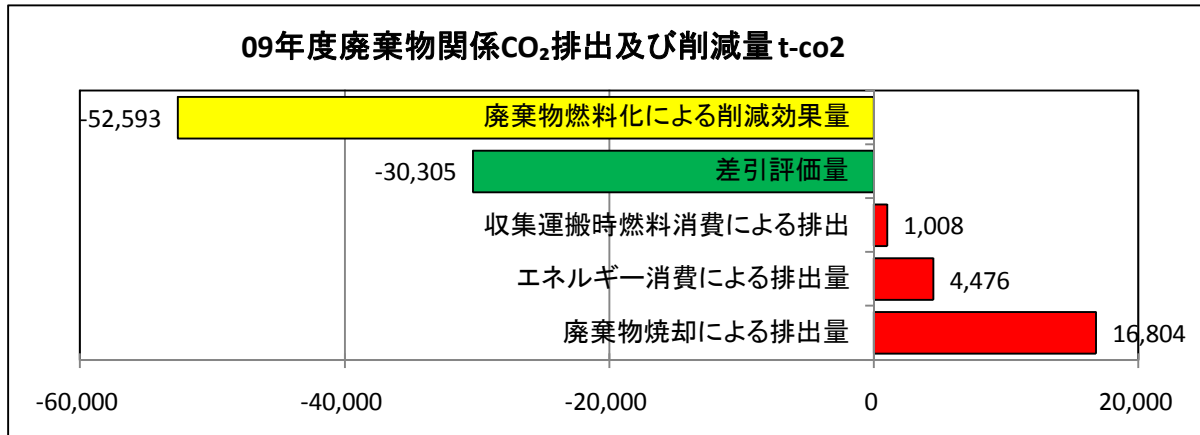
が安定的に機能していることと、売上高の減少及び水の使用量の減少により導き出されたことと思います。



当面は、設備のメンテナンスを含めて稼働効率の向上に努めます。

CO₂の排出量と大気環境測定結果

● CO₂排出量の削減



上図は、事業活動に伴うCO₂の排出量と、間接的ではありますが廃棄物の燃料化によるCO₂の削減量を評価したものです。廃油を単純焼却処理した場合と、燃料化して有効利用した場合とでは、このように大きな差が出ます。ちなみに廃油1Lの燃料化で約2.9kgのCO₂の排出を削減することになります。

引用：(社)全国産業廃棄物連合会 温室効果ガス削減支援ツール

● 大気環境測定結果

1. ダイオキシン類

対象施設：焼却施設

資料採取日：2009.06.12 証明書発行日：2009.07.29

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.9 ng-TEQ/m ³ N	5 ng-TEQ/m ³ N	4.0
焼却灰（燃え殻）	0.0012 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4
飛灰（ばいじん）	0.084 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4

2. ばい煙

対象施設：焼却施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日：2009.06.12 計量証明発行日：2009.06.24	資料採取日：2009.12.22 計量証明発行日：2010.01.23		
ばいじん濃度	0.003 g/m ³	0.002以下 g/m ³	0.15g/m ³	0.12
硫黄酸化物量（K値）	0.24 m ³ /h	0.2 m ³ /h	8.0m ³ /h	6.4
窒素酸化物換算濃度	80 ppm	40 ppm	250ppm	200
塩化水素換算濃度	320 mg/m ³	94 mg/m ³	700mg/m ³	560

対象施設：ボイラー

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日：2009.06.12 計量証明発行日：2009.06.24	資料採取日：2009.12.22 計量証明発行日：2010.01.23		
ばいじん濃度	0.12 g/m ³	0.13 g/m ³	0.3g/m ³	0.24
硫黄酸化物量（K値）	0.069 m ³ /h	0.18 m ³ /h	8.0m ³ /h	6.4
窒素酸化物換算濃度	130 ppm	170 ppm	180ppm	144

“脱”埋立処理

● 溶融リサイクル（委託処理）

当社で焼却処理された廃棄物の残渣物である「燃え殻」と、排ガス処理に伴って回収された「ばいじん」は、埋立処分場ではなく溶融固化処理業者へ処理委託しています。委託先での溶融固化処理は、廃棄物を高温で溶かして有害物質を無害化または揮発させ、ガラス質で安定した性状の「溶融スラグ」と、金・銀・銅などを含んだ「溶融メタル」を回収しています。揮発した鉛・亜鉛・カドミウムなどは「溶融飛灰」として捕集され、これらも貴重な資源としてリサイクルされます。



溶融スラグと溶融メタル
(手前も溶融スラグです)



溶融スラグ

その他の活動

● ペットボトルのキャップからポリオワクチン

当社は、09年度の1年間で、ペットボトルのキャップ計156kg（約62400個分）を、「エコキャップ推進協会」へ送りました。

これをエコキャップ推進協会が再資源化業者へ売却し、その収益がワクチン購入資金として「JCV（世界の子供にワクチンを日本委員会）」に寄付されます。

キャップ約800個でポリオワクチン1人分が購入できるということで、78人分のポリオワクチンになります。

当社社員をはじめ、賛同頂き協力して下さった皆様には心より感謝申し上げます。

● 会社周辺美化活動

09年度は、6月6日と12月19日に「会社周辺美化活動」を行いました。

年に2回定例で実施していますが、今年度から車両駐車場(会社から約2km離れている)も含めて実施しています。

● ”チーム付ス6%” から”チャレンジ25”へ

2010年1月14日より従来の”チーム付ス6%”から”チャレンジ25キャンペーン”運動へと生まれ変わり展開することとなりました。

これは、2009年9月、日本が国連気候変動サミットにおいて2020年までに1990年比で温室効果ガス排出量を25%削減するという方針を発表したためです。

専用機械の活躍紹介

● ドラム缶上フタ加工機



機械全景



ドラム缶セット



切削ドリル位置



ドリル部分



切削スタート



こんな感じに切取ります



導入して間もないものですが、ドラム缶に入った状態で搬入される処理物を取り出し易くするために上フタを切取る機械です。従来、レシプロソーを使用していましたが騒音対策のために導入しました。約3分で蓋を切取ることができます。

● ドラム缶プレス機



機械全景



ドラム缶セット



スタート



出来上がり



取出し

5年程前に導入しました。圧力容量は12tで約15秒で200ℓのドラム缶を圧さ20cm程度に圧縮してしまいます。既に、2台目を注文済みで、今度のもは圧力容量が18tになります。更なる処理スピードの向上が実現できることとなります。

環境情報記録

● 環境情報記録(法規制)

当社では環境情報を入手したときには3つのランクに分けて記録・対応しています。

A . . . 緊急事態情報、法規制から逸脱する内容、苦情

B . . . 自主基準から逸脱する内容

C . . . 一般環境情報 (A、B以外で且つ非苦情を除く)

2009年度は、Cランク (社外からの情報) が4件ありました。

2010年4月から施行の改正地球温暖化対策法及び群馬県条例の情報もここから入っています。当社も今後は二酸化炭素排出量の発生抑制を求められることとなります。

そのほか常日頃から環境に関する情報は入手・伝達されていますが、当社の主たる業務は環境関連である廃棄物処理であることから、ここでは特に法規制等の重要な記録・対応をしています。

おわりに

2009年度も当社の事業の柱の1つである廃油のリサイクルについては、その原料となる廃油の調達 (収集運搬・受入) から製品 (再生重油) の販売まで、石油関連市場の影響を大きく受けました。

更に、売上高と密接な関係を持つ当社の環境目的・目標の達成に向けての活動は当初より、目標値を下方修正せざるを得ない状況でした。

しかしながら、1年を経過してみると実数として売上高や取扱数量は、一昨年のレベルに復帰してはいませんが、傾向としては、若干回復の兆しが表れてきているような気がします。

我々を取巻く環境は、関連する法律を筆頭に益々厳しさを増してまいります。法を順守し適正な処理を実施することで「継続的改善」を推進し、廃棄物のリサイクルを通じて社会に貢献できるよう努力していきたいと考えております。

環境管理責任者 山口 博



株式会社群桐産業

〒379-2301 群馬県太田市藪塚町3201
TEL:0277-78-2479 FAX:0277-78-5084
ホームページ <http://www.grr.co.jp>
メールアドレス info@grr.co.jp

2010年7月7日発行

未来が変わる。
日本が変わる。

チャレンジ
25